

# PLAY BOOK



**YAMAHA**  
MUSIC SEQUENCER  
QY10



QY10 PLAY BOOK

1

このたびはQY10をお買い上げ頂きまして、誠に有り難うございます。

## QY10とは

QY10はVHSビデオカセットサイズのボディにシーケンス機能と音源を搭載し、さらに数々のアイデアを盛り込んだ、今までになかった音楽アイテムです。

## QY10は小さくても

簡単に気に入ったスタイルを演奏してくれる「気の合うバンド」であり、リズムやコードを教えてくれる「アレンジの先生」でもあります。作曲したフレーズを忘れずにメモる「音楽用の電子手帳」でもあり、楽器練習の友「リズム・トレーナー」でもあります。

もちろんオリジナル作りには強力な助っ人「デモ作りの達人」。いつでもどこでも音楽するクリエイティブな音楽ファンのパートナーです。

本書ではQY10を今すぐ楽しんで頂く為に、使い方のコツをわかりやすくアドバイスしています。

## CONTENTS

〈基本編〉デモ・ソングの聞き方	.....P.2
パターンについて	.....P.3
コード入力について	.....P.5
プリセット音色について	.....P.7
〈応用編〉音源モジュールとして	.....P.9
リズム・マシンとして	.....P.10
シーケンサーについて	.....P.11
ソングを組む	.....P.12
パターンを作る	.....P.13
レコーディングでのヒント	.....P.15
アイデア活用法	.....P.17

\* さらに詳しい取扱い方法については「取扱説明書」をお読み下さい。



QY10 PLAY BOOK

2

QY10は、今やサウンド作りに欠かせないシーケンサー、音源、ドラム・マシンを一台でこなします。

8トラックのシーケンサーには8曲約6,000音まで録音できます。

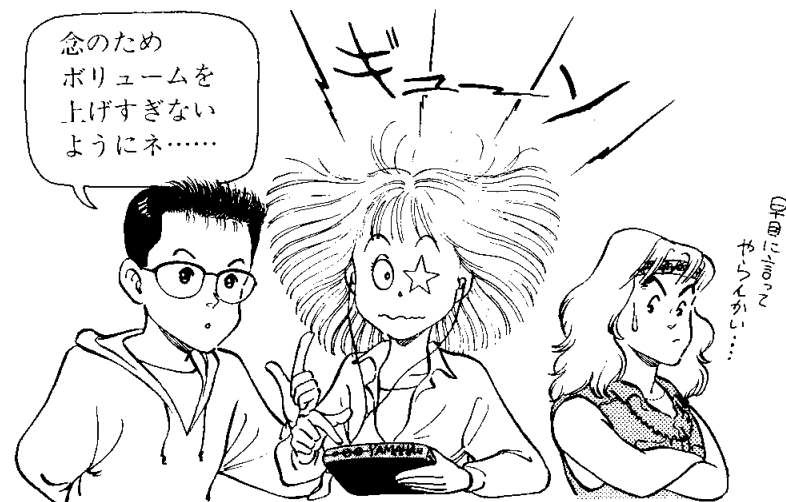
音源はピアノを始めサンプリングされた楽器音が30種類、その他にドラムとパーカッションが26種類もあります。

## デモ・ソングの聞き方

ではまずデモ・ソングを聞いて「音」と「機能」を確かめて下さい。ヘッドフォンを用意して、あとはバッテリーが入っていれば左のパワースイッチで「電源オン」。(連続8時間もの使用が可能ですが、ACアダプターもオススメです。)

[SONG]キーを押し、カーソルキー◀▶の右▶を押してから[+]キーを押してゆくと表示の右端が[S2][S3]と変わり、9番目に[DM]が現われます。

そこでラジカセにある様な▶マークでスタート!

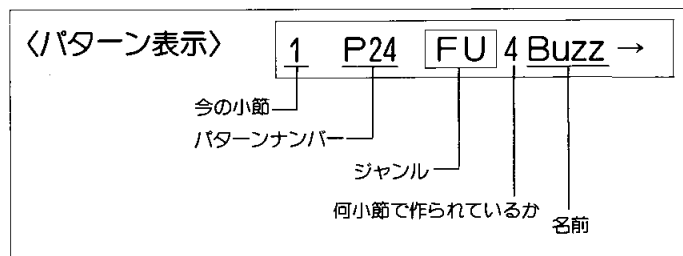


## パターンについて

QY10の演奏方法は大きく別けて、ソング（SONG）とパターン（PATT）で出来ています。アモの様に一曲を終わりまで演奏するのがソングで、パターンは曲のある部分（1～8小節）だけを繰り返します。

パターンはP24からP99まで76種類のスタイルがプリセットされています。

パターンは頭のアルファベット2文字でジャンル分けされています。ファンクならFUというように、



EU=ユーロビート  
 BA=バラード  
 SA=サルサ・サンバ  
 SW=スウィング・ジャズ  
 RP=ロック・ポップ  
 RR=ロックンロール  
 BL=ブルース  
 GO=ゴスペル  
 BK=フィルイン/ブレイク

FS=ファンク・シャッフル  
 CR=カントリー・ロック  
 ET=エスニック  
 RE=レゲエ  
 HR=ヘビー・ロック  
 RS=ロック・シャッフル  
 RB=リズム&ブルース  
 CW=カントリー

\*パターン解説は取扱説明書P192～P194にもあります。

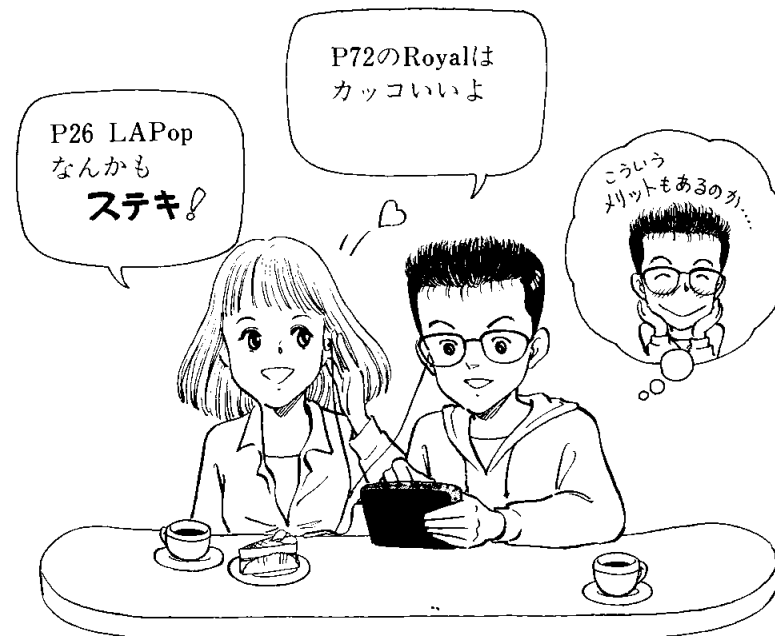
## パターンを聞いて見ましょう。

[PATT] ボタンを押し [+ ] キーをP24がくるまで押し続けるか、左上に数字のあるテンキーで [ 2 ] [ 4 ] と入れ、 [ ENTER ] を押しして下さい。画面は [ 1 P24 FU4 Buzz → ] となり、▶ で演奏スタート。

パターンはP24からP99まで76種類のスタイルがプリセットされています。

他のパターンも聞いてみましょう。

[ + ] [ - ] カテンキーで数字を入れ [ ENTER ] 。





QY10 PLAY BOOK

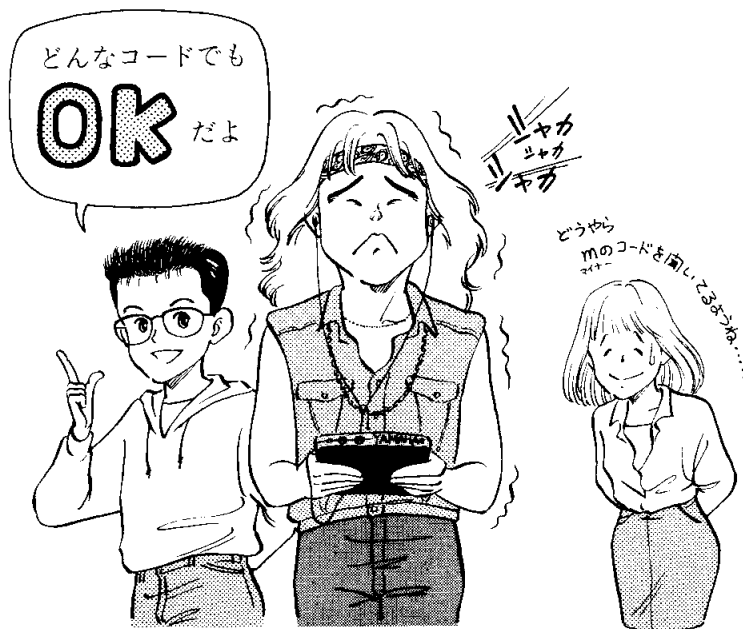
5

## コード入力について

パターンのコードを自由に変えることができます。

パターンを選んだ後、カーソルを右に移動してコード・ネームを表示させ、ミニ鍵盤でルートを、コード・キーでメジャー、マイナーなどを始め様々なコード・ネームを指定し、**ENTER** キーで実行します。

コードの種類はポップスで最も多く使われるベーシックなコードが10種類とジャズやフュージョンで使われる9THなどのテンションが10種類、合計20種類です。



QY10 PLAY BOOK

6

## コードを変えてみよう

パターンの状態でカーソル◀▶の右▶を押すとコード表示になります。

ミニ鍵盤でコードのルートを指定し(左端のドがC、次のレがDというように) m7などと書いてあるキーでそれらを指定して**ENTER**を押せばそのコードに変わります。

(**ENTER**を押した瞬間からコードは変わるのでタイミングに気をつけて)

\*ブルースなど全部が7(セブンス)コードの時は一度7(セブンス)を指定してあげば、あとはコードのルートと**ENTER**だけでOK。

**SHIFT**を押しながらコード・キーを押す、又は同じコード・キーを続けて2度押すとボタンの右に書いてある9(ナインス)などのテンション・コードを選ぶことができます。

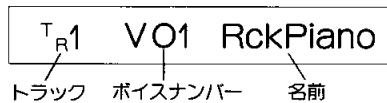
D、D6、Dmaj7など同じルートで変化してゆく場合は、一度ルートのDを指定したら後はコードキーと**ENTER**だけでOK。



## プリセット音色について

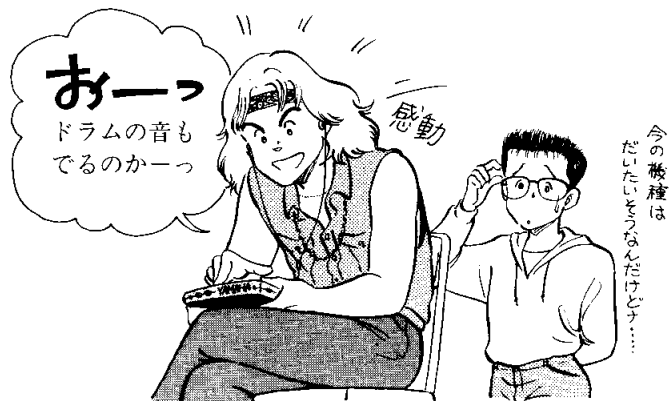
QY10にはピアノを始め30種類の楽器音と、ドラムとパーカッションを26のキーにセットしたドラムセットがプリセットされています。いずれもリアルなサンプリング音です。これらの音はミニ鍵盤で音を出すことができます。ソングやパターンでは8つまたは4つのトラックでそれぞれ異なる音を演奏できます。音色の設定は **MENU** の中の **Voic** (ボイス) を選んで行います。

〈ボイス表示〉



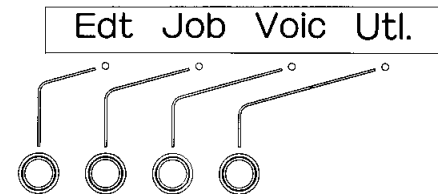
ボイスは、1～6がキーボード系、7～9がプラス&ストリングス、10～18がギター&ベース、19～21がマリンバ&パイプ、22～30がシンセ&リード、31がドラム・セットです。

\*ボイスについての解説はシートにもあります。



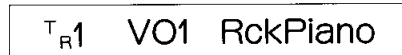
## 音色を変えるには

**MENU** ボタンを押すと、画面は次の様になり、



それぞれの項目から線が繋がれた黄色いボタンで作業を指定します。

ボイス **Voic** を選んでみましょう。画面は



カーソルがボイス・ナンバーVO1の所にあれば、**+** **-** で30種の楽器音とドラム・セットを聞く事ができます。もちろんテンキー入力と **ENTER** でもOK。

ミニ鍵盤で音を聞いてみて下さい。

下矢印 **▼** で音程はオクターブごとに下がり、上矢印 **▲** で上がります。

ドラム・セットでは、下矢印 **▼** ではミニ鍵盤の下の列に書かれた音が、上矢印 **▲** ではミニ鍵盤の上の列に書かれた音がでます。

ちなみに下列にはベーシックなドラム音、BD=バスドラム、SD=スネアドラム、TomL=タム・ロー、HH-C=ハイハット・クローズ、HH-O=ハイハット・オープン、Crash Ride=シンバルの音などがセットされています。

上列ではカウベル、コンガ、アゴゴ、ティンパレスなどパーカッションがメインにセットされています。



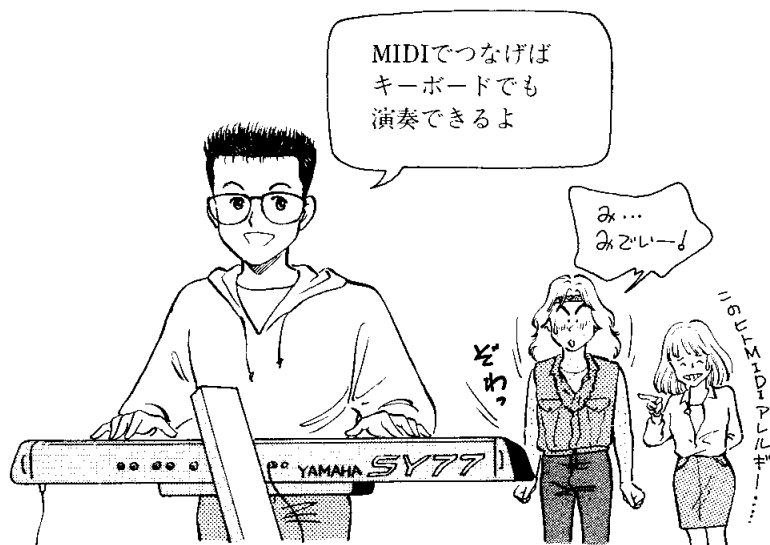
## 音源モジュールとして

シンセサイザーなどMIDI端子付きのキーボードとMIDIケーブルで接続すれば、

1. QY10の音を他の鍵盤で演奏する事ができます。
2. QY10のシーケンサーのリアルタイム録音ができます。(1~4トラック)
3. QY10で作ったシーケンス・データで他のシンセを鳴らす事ができます。

もちろん他にシーケンサーやミュージック・コンピュータがあれば、それらのデータでQY10を鳴らす事ができます。

トラック1から順にMIDIチャンネルの1から対応しています。(トラック2はチャンネル2、トラック8番目にあたるリズム・トラックはチャンネル8)

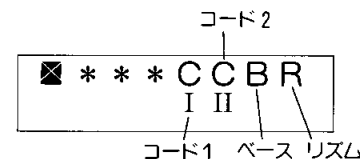


## リズム・マシンとして

QY10のリアルでパワフルなドラム音は、リズム・マシンとしても十分なオリティーをもっています。パターンの時にコードやベースのトラックをミュートする(オフ)とQY10はドラム・マシンに……

### トラックのミュート

パターンの状態で(演奏中でも) **TRANS** キーを押す。画面は右のようになります。



この時ミニ鍵盤の白いキーは8つのトラックに対応しています。ここでバックアップを担当している後半の4トラック、例えば(C1)コード1を押すと画面からCのマークが消えてミュートされます。同様に(C2)と(BASS)を押せばドラム音だけになるわけです。

\*ここではデータをクリア(消)したわけではないので、ミュートしたキーを再度押せば各トラックの音は元に戻ります。

**TRANS** キーは押すごとにトラック表示とトランスポーズ(移調)表示が入れかわります。

\*元のパターン画面に戻る時は、**PATT** キーか **EXIT** で。



## シーケンサーについて

ここでQY10のシーケンス機能についてまとめてみましょう。

### パターン

パターンは：

C1(コード1)、C2(コード2)、B(ベース)、R(リズム)の4つのトラックで構成されています。これらをバックイングパートと呼びます。

P00(パターン0)からP23までの24パターンがユーザー・エリアです。P24からP99までの76パターンはプリセットパターンです。

### ソング

ソングは：

バックイングトラックにパターンナンバー、コードを記録して曲の流れを構成し、通常のシーケンサーである1~4トラックにメロディーその他の部分を録音して作られます。ソングの録音、編集状態では、画面右はじの表示でトラックを確認します。カーソルを移動し、**[+]** **[-]** キーで<sup>T</sup>R1、<sup>T</sup>R2、<sup>T</sup>R3、<sup>T</sup>R4などのトラックを指定します。

BKは4つのバックイング・トラックをまとめて編集するトラックです。それをさらにこまかく編集するためにC I(コード1)、C II(コード2)、BS(ベース)、RT(リズム)があるのです。

もうお気づきのようですがQY10のシーケンサーは正確には9トラックの機能を持っているのです。

\*スピーディーなソング編集の為に、BKトラックだけでも十分です。



## ソングを組む

では簡単なソングを作ってみましょう。まずは練習です。次の手順で入力してみましょう。

**[SONG]** キーを押します。


画面は

001 T120 4/4 S1

テンポ 拍子 ソングナンバー

ここではカーソル移動でテンポ、ソング・ナンバーを指定します。

\*ソングはS1からS8まで。

赤いレコード・ボタン  を押してスタンバイ。

画面のソング表示が録音のトラック表示に変わります。

001 T120 4/4 <sup>T</sup>R1

**[+]** **[-]** キーを押して録音トラックを指定します。

ここではBK(バックイング・トラック)を指定します。

**[▶]** ボタンでスタート。

ここで **[MENU]** キーを押

すと、画面は右のようになります。

cho bas pat

コード ベース パターン

ここではpat(パターン)を選びます。(黄色いボタンで指定)画面は次のようになります。

001 P --

テンキーでパターン・ナンバーを入れ **[ENTER]**。

パターンが入力されるとメジャーが進みます。

同じパターンでも良いのですが、試しに幾つかの違うパターンを入れてみましょう。終了は **[■]** でストップ。


**[▶]** でスタートすると選んだパターンが、その小節だけ演奏して終わります。



## パターンを作る

オリジナルのパターンを作ってみましょう。

**[PATT]** キーでパターンを指定  
パターン・ナンバーP00~P23(ユーザー・パターン)のいずれかを選びます。

赤いレコード・ボタン  を押してスタンバイ。画面は

1 T120 4/4 C1 →

テンポ 拍子 コードトラック

ここではテンポ、拍子、録音するトラック、小節数を指定します。

## ドラム・パートを作ってみましょう

**[+]** **[-]** キーでRT(リズム・トラック)に設定。ミニ鍵盤に触れるとドラム音が聞こえます。

\* カーソルを右に移動すると1Ms(メジャー)表示が現われます。  
2小節以上のパターンを作る場合は、ここで設定します。

**[▶]** ボタンでステップ入力  
開始、画面は


0~23まで      ステップ (コードの時はC)

1 - 1 - 00 S ↓ - - - - →

メジャー      ビート      クロック


ミニ鍵盤を押すとその表示が画面に現われます。音符マークのあるキーで音の長さを決め、**[ENTER]** キーで入力されます。

## スピードドラム入力例

BD1  **[ENTER]** HHC **[ENTER]**  
SD1 **[ENTER]** BD1 **[ENTER]**  
BD1 **[ENTER]** HHC **[ENTER]**  
SD1 **[ENTER]** HHC **[ENTER]**  
**[■]** でストップ

\* パターン入力はストップするまで繰り返し入力されます。


## ベース・パートも入れてみよう

さきほどのドラム・パターンにベースも付けて見ましょう。  
同じパターンで同様に。赤いレコード・ボタン  でスタンバイ。  
カーソル移動で指定トラックをRTのリズムからBS(ベース)に変更します。ミニ鍵盤で音を確認して見ましょう。

\* 同じ音を続けて押すと音域はオクターブ上がります。**[▲]** **[▼]** で  
も上下します。

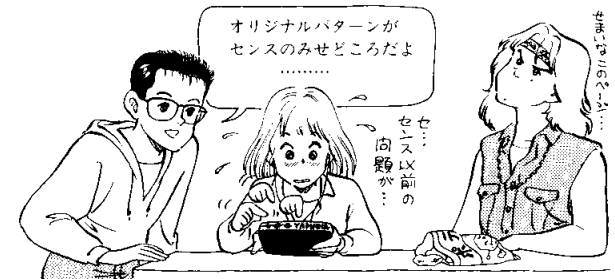
**[▶]** ボタンで入力開始。

## スピードベース入力例

C2  **[ENTER]** C2 **[ENTER]**  
E2 **[ENTER]** G2 **[ENTER]**  
Bb(フラット)2 **[ENTER]** C2 **[ENTER]**  
E2 **[ENTER]** G2 **[ENTER]**  
**[■]** でストップ

**[▶]** ボタンで再生して聞いてみましょう。  
演奏中にカーソルを右に移動しコード表示にしてコードも変えて聞いてみましょう。

\* Cコードで作ったベースのフレーズがミニ鍵盤でD、テンキーでマイナーなどのコード・チェンジを指定すると変化します。  
\* 入力したBbの音はセブンスの音にあたるので、7コードを指定すれば再現します。(ただのメジャー・コードではセブンスの音は出て来ません。)





このページに目を通す頃には、皆さんの中にはもうパターンやソング作りを幾つかトライして、何となくQYとの付き合い方が見えてきた方もいらっしゃるかもしれません。

QYの中心となるソングとパターン、それぞれの作業そのものは似ています。そしてソング、パターンそれぞれの細かい設定にMENUがあるわけです。カーソル移動になれると多彩に見えるQYも意外と簡単なものです。

## レコーディングでのヒント

### パターン入力

音が小さい：録音時にカーソルを右端まで移動し、V(ベロシティー=ボリューム)を上げる。(最大127)

よく間違える：今間違えたばかりなら、BDel(バックデリート)で戻りながら取消しができます。後から消す時はそのタイミングの所でDel(デリート)。

タイミング表示：1小節の2拍目の裏なら、01-2-12。

コード入力：本体でのステップ入力はCho。(EXIT)を押せば解除)

演奏が変わった：コード・セット確認。

出ない音がある：トラック・ミュートの確認 TRANS キー。

消したい：MENUのJob 7: Clear parts.

その他のMENU：Quant Parts (クオンタイズ)は生演奏データのタイミング編集。

Get Partsは1~4トラックのある部分をパターンに変換。

\*オリジナル・パターンはC7(セブンス・コード)で作るとコード・チェンジ[ルートにDにしたり9(ナイン)を加えたり]が理想的に行えます。

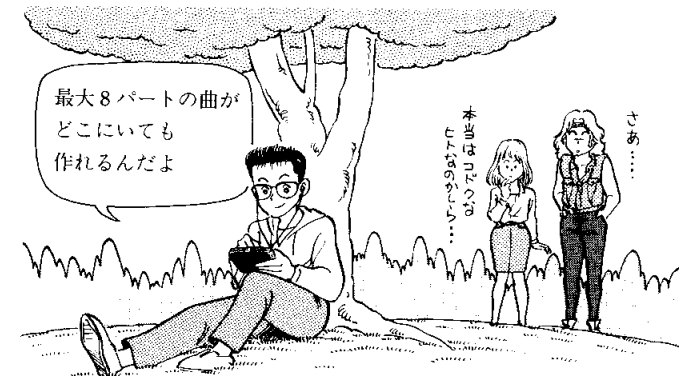
## ソング入力

ソングの1~4トラックはリアルタイムの演奏を記録するレコーダーとして、又ステップライトの打ち込みも、通常のシーケンサーと同様に活用できます。

QYならではのソング作りでは、パターンをどう料理するかがポイントです。スーパーマーケットの様に並んだプリセットも、自らトライしたオリジナルも火加減一つ(テンポを変えるだけで)様々に変化します。お茶漬けからアラカルトまで料理法は色々ですが、BK(バックキング・トラック)はさしずめ「お好み焼き」。早い/ウマイ!手づくり/しかもメニューが豊富。

BKトラックはコード、ベース、リズムがセットになったオススメ・コース。12ページで練習したソング入力のMENU画面にあったように、cho=コードが、bass=ベース・オフセットが、pat=パターンが、指定できます。「これだけやればオリジナル!」

\*気に入ったパターンに、スタンダードのコード進行をいれていけば、新しいアレンジのカバー・バージョンなんか簡単にできあがる。





## アイデア活用法

### メロディーをメモっておけば作曲家

イメージを記録するのが作曲の第一歩、思いついたらメモがわりに即録音。編集できるのがシーケンサーの強み、別々のトラックにメモったフレーズをミックスしたりつなげたりも又楽し。

### 6/8でカラオケ作れば宴会の花

パターンP50は3連のパラード、Hヒューстонにも演歌にも良くあいます。

### エアロビクスもQY使えばエンドレス

パターン・プレーはストップするまで止まらない、テープと違いエンドレス。エクササイズのサイズも思いのまま、終わりが無いからスリムになれる？

### パンにこだわる多録の友

多重録音マニアは音質と共にパンとエフェクトにこだわる。QY10のライン・アウトはミニでもステレオ、変換プラグを使えばLR(左右)2本のラインとなる。さらに右だけから出すとか、左だけからなどアウトの設定が楽器ごとにできるから、ギターは左、ピアノは右といったパンが可能。手持ちのエフェクターを使えば異なるエフェクトを楽しめる。

### ツアー・バンドの友

もっともオススメしたいのがプロ・ミュージシャン。たいくつな移動の車中で新曲のデモ作り。

### 学校で

専門学校のアレンジ、コンポーザー・コースの教材に。

### 通勤通学の友

ライブラリーがそろえばオリジナル・ウォークマン。